

# 私たちは世界を変えることができるのよ



**あなたの願いは何ですか**

●ウィッシュ・ツリー

最後にみんなで短冊に願いを書いてモミジの木にへりつけました。ヨーコさんは「私はいつも世界の平和を願ってきたから、今日はみなさんの幸せを願いたい」と、短冊に「今日会った子どもたちがみんな、平和で楽しい人生を送りますように」と書き、枝にへりつけました。写真④。原簿で曾祖父を亡くした広島県府中町の中島春香さん(小4)は、「家族みんながいつまでも笑顔でいられますように」という願いを込めました。

## 願いを書いて送ってね

みなさんは、どんな願い、夢や希望がありますか？ 下の短冊に書いて毎小編集部まで送ってください。ヨーコさんへのメッセージや感想など、お手紙も大歓迎です。ヨーコさんへ届けます。

## プロミススペースをプレゼント

★住所、名前、性別、学年、電話番号を書いて、〒100-8051(住所不変)毎日小学生新聞「ヨーコさん」係へ。17日の消印有効です。

送ってくれた人の中から20人にプロミススペースの「約束のかけら」をプレゼントします。ひとりで見える夢はただの夢。みんなで見る夢は現実になる。——たくさんの夢やメッセージ、待っています。



↑子どもたちの質問に答えるヨーコさん

↓プロミススペースのかけら。⑤の写真でステージ脇にあるボードがツボの元の姿です



## 10年後—約束のかけら

●プロミススペース

一生懸命カップを直したり、短冊に平和への思いをびっしり書き込む子どもたちに、ヨーコさんは、白い大きなツボを割ったかけらをプレゼントしてくれました。10年後、かけらを元に戻しましょう。みなさん、また会いましょうね」と語るヨーコさんと、再会を約束してお別れしました。福岡県行橋市の工藤紗矢さん(小6)は「10年後、みんなでつぼを完成させることができたらうれしいです」。茨城県電ケ崎市の都留和葉さん(小6)は「ヨーコさんは、この人と活動したいと思わせる、世界的リーダー的な存在だと感じました」と話していました。

ヨーコさんはいかに、会場の椅子を見て「この椅子は、どのように使うの？」と身を隠すためのもの？隣に寝てみようかしら」と、椅子を逆さまにしたり、倒したりします。写真。子どもたちは答えにつまみります。沖縄県恩納村から参加した小谷地光君(小4)は「ヨーコさんの横に立ち、ずっと立っていると足が疲れるから、座る時に椅子を使います」と教えてあげました。何度か問答をくり返し使う方が分かったヨーコさんは「確かに、椅子に座ると楽ねだからみんな、椅子が好きなね」と、椅子にキスをしました。

いっしょにやってみよう

ヨーコさんは、夫でピートルズのメンバー、故郷を探し出すことから始まりました。周りを見渡すと、壁の向こうから黒いシャツの袖と手が見えます。子どもたちが元気に「ヨーコさん」と呼ぶと、笑顔のヨーコさんが登場。みなさん、私たちは世界を変えることができるのよ」と語りかけました。

主催・毎日小学生新聞 広島市現代美術館 特別協力・スリーボンド



割れたカップをくっつける子どもたち。スリーボンド提供の接着剤を使用しました

## 壊れたカップをくっつけて

●メンドピース

「メンドピース」は、ヨーコさんの代表作の一つです。壊れた陶器の破片を、接着剤を使って元に戻します。

「ある少年がね、離婚しようとしていたパパとママが、メンドピースのパフォーマンスを見て、仲良くなった。ありがとう」という話をしていました。

## オノ・ヨーコ 子どものためのワークショップ「希望の路」

7月28日、広島市現代美術館(広島市南区)で、毎小読者17人とともに「オノ・ヨーコ子どものためのワークショップ「希望の路」」が開かれました。ワークショップのテーマは、ヨーコさんが40年以上、作品を通して表現してきた「平和」です。みなさんもワークショップに挑戦してみてくださいね。【小丸朋恵】

## ●ヤーンピース

3色の毛糸が子どもたちに巻き付けられていきます。光の黄色、雲の白、青は空を表します。福岡市中央区の増本涼太君(小3)が「もっと光をちようたい」とリクエストする。体は黄色の毛糸に包まれました。毛糸の端を握ったヨーコさんは「みなさんの体が空に続いているわ。そして私は、あなたたちとつながっているのよ」とほほ笑みました。

## ●椅子の座り方を忘れてしまったのピース



**＝ 応募要項 ＝**

**【テーマ】「漢字のある風景」写真**

漢字が描かれている看板やポスター、標識  
漢字が描かれているように見える雲や木々などの自然  
人文字や漢字を身体で表現する様子など  
※漢字が入っている風景写真(カラー・モノクロいづれでも可)、漢字は一字と限定しません。

**【審査】**主催団体および専門家により、写真だけでなくタイトルやメッセージもあわせて総合的に審査。入賞作品は、応募者氏名、タイトル、メッセージとともに平成23年9月下旬に漢検ホームページにて発表した後、「漢検漢字資料館」(京都市)などに展示

**【応募方法】**

<パソコンからの応募>  
http://www.kanken-photo.jp/ にアクセスして「パソコンからの応募はこちら」をクリックして応募フォームへ進み、写真(デジタルデータ)を添付して、必要事項を入力の上、応募。  
\*1回の応募につき作品1点応募 \*作品規定/1MB~3MBのサイズ(2MBを推奨)、JPEG形式。

<携帯電話からの応募>  
携帯電話で http://m.kanken-photo.jp/ からメールの画面に進み、写真(デジタルデータ)を添付して、必要事項を入力の上、応募。  
\*1回の応募につき作品1点応募 \*作品規定/1MB~3MBのサイズ(2MBを推奨)、JPEG形式。

<郵送での応募>  
所定の応募用紙(ホームページからダウンロード)に写真を貼り、必要事項を記入の上、下の宛先まで郵送。複数の作品をまとめて送るが、応募用紙は1作品につき1枚用意。  
\*作品規定/1列~四つ切りサイズで写真用紙にプリント(ワイド四つ切り・組写真は不可)  
〒600-8691 日本郵便 京都支店 私書箱第6号 「漢字のある風景」フォトコンテスト係

**【応募締め切り】8月29日(月)必着**

問い合わせ 「漢字のある風景」フォトコンテスト 事務局  
ホームページ <http://www.kanken-photo.jp/> 電話 ☎075-211-3075  
受付時間:月~金 10:00~17:00(祝日・8月15日を除く)

**「漢字のある風景」**

**フォトコンテスト開催**

いつも見ている景色やまわりの中、乗り物、あらゆるところで「漢字」を使った看板や案内があります。また雲や木々などが漢字のように見えるものもあります。財団法人日本漢字能力検定協会は、身の回りにたくさんある「漢字」に目を向けてもらうため「漢字のある風景」をテーマとした写真コンテストを開催しています。

漢字が描かれている看板やポスターや標識、漢字が描かれているように見える雲や木々などの自然、また人文字や身体で表現した漢字が写っている写真をとみましょう。

コンテストは小・中学生部門

タイトル/大

タイトル/日本

と一般部門があり、それぞれに大賞1名、準大賞2名、特別賞(約10名)が選ばれ、ホームページで発表後「漢検漢字資料館」などに展示。応募締め切りは、8月29日(月)必着。

**ThreeBond**

一滴の漏れをも無駄にしたい

いまから50余年前、道路に漏れ落ちた一滴のオイルを見て私たちは工業用接着剤メーカー「スリーボンド」を創業しました。資源の少ない日本の為に「その一滴の漏れをもなくそう」と考え、シール剤・接着剤を開発してきました。

その創業時の思いが今では、ハイブリッド車、燃料電池など最先端技術の分野でも活かされています。

スリーボンドには、「エネルギーの漏れを防ぐ」という、不変の理念があります。

かけがえのない地球を守るため、スリーボンドは、「一滴のこころ」で未来をつくります。

一滴のこころで未来をつくる  
**株式会社スリーボンド**